

【脚本】ドール

森 悠哉

登場人物

西沢純（19）フリーター
安藤恵（19）アイドル
小林孝司（19）無職
神原仁志（25）俳優
ラジオMC
タクシー運転手
AV女優
記者1・2・3

○屋内ライブ会場

やや大きめの会場。

満員の観客席。

安藤恵（19）がステージの上で歌っている。

観客席の最前列で恵の親衛隊が、激しく踊っている。

その中に小林孝司（19）がいる。

観客席の後方で、西沢純（19）がじつと恵の顔を見ている。

恵「今日はみんなに会えてうれしかったよ！

また会おうね！」

観客「メグミン！」

○ファミレス（夜）

ボックス席に座っている西沢。

西沢、ぬい物をしている。

小林「じゃあな、おつかれ！」

汗だくの小林が店内に入ってくる。

西沢の向かいの席につく。

小林「いやー、今日のライブは最高だったな」

西沢「うん、良かった」

小林「メグミンの歌と我らが親衛隊のダンス

が見事にシンクロしてたな」

西沢「小林君、すごい汗かいてるもんね」

小林「当然だろ。メグミンのために体はって

んだから。お前とは違うんだよ、西沢」

西沢、苦笑する。

小林「もう作ってんのか？ 飽きずに良くやるなー。どの衣装だ？」

西沢「五曲目、ラブクッキングの時の衣装」

小林、立ち上がり西沢と握手する。

小林「わかってるじゃん！ 最高だよな、あの衣装！

メグミンの清楚で元気がいい感じで出でてさ。また俺の分も頼むよ」

西沢「うん」

小林「資料なんかいるか？ その衣装なら

写真あるけど」

西沢「大丈夫、全部頭の中に入ってるから」

西沢、ぬい物を再開する。

小林、西沢を見ている。

小林「西沢、お前やっぱり親衛隊入んないか？
お前ほどのファンならみんな認めてくれる
し、ダンスも少しづつ覚えていけばいい。
最高だぞ！ メグミンは目の前で見れる
し、ダンスが完璧になるとまるでメグミン
と一つになったような」

と、にやにやする。

西沢「ごめん、やめとくよ。なんか、違う気がするんだ」

小林「違うってなんだよ」

西沢「いや、だめとかそんなんじゃないよ。俺には合わない気がするんだよ。それに、近づきすぎるともつと近寄りたくなるでしょ。だから、ごめん」

小林「よくわかかんね。店員さん、ビックパフ
エーっ」

と、手を上げる。

西沢、うつむき、ぬい物を続ける。

○西沢の部屋（夜）

机の上に恵の写真が入った写真立てと
ラジオが置いている。

西沢、机に座りぬい物をしている。

ミニチュア衣装を縫っている。

ラジオから恵の音がする。

恵「はい、すつごく楽しかったですよ！」

M C「相変わらず満席だったんでしょ。すごいねえ恵ちゃんの人気は」

恵「もう、ほめても何もでませんよ」

M C「そうなの？ じゃあいいや、この話は置いといて」

恵「えー、ひどいー！」

恵とM C、笑う。

西沢「・・・嫌なやつ」

M C「そういえば、今回も衣装は自分でデザインしたんでしょ」

恵「はい、大変でしたよー」

M C「マルチだねえ、特に気に入ってる衣装とかあるの？」

恵「うーん・・・」

西沢、縫い終わったミニチュア衣装を女の子の人形に着せる。

恵「五曲目のラブクッキングの衣装かなー」

西沢、微笑する。

M C「んー、ごめん覚えてないなあ」

恵「えー、すごい力いれてデザインしたの。いいです！ 分かってくれる人はいますから」

M C「え、その言い方は特定の誰かってこと？ まさか！」

恵「い、いや、そういうことじゃなくて。あ、そうそう、西沢さんのことです！」

西沢、ラジオに振り向く。

M C「西沢さん？」

恵「そうなんですよ。最近、ライブの後に、必ず事務所に私宛てのプレゼントが送られてくるんです。それが西沢さんって方からなんですけどね」

M C「ふんふん」

恵「そのプレゼントが、ライブで私が着たのとまったく同じ衣装を着た人形なんです」

西沢「うわ！ほんとに？」

と、ラジオに耳をくつつける。

M C「なんかそれ危くない？ 大丈夫？」

恵「大丈夫ですよ。手紙も入っていて、どうやら西沢さんは女の子のお子さんがいるお母さんらしく、親子でファンで、この人形を作ってくれてるみたいなんです」

M C「へー、すごいねえ。そういうファンがいてくれるとうれしいでしょ？」

恵「はい。西沢さん、これからも衣装のデザインは続けるから、応援よろしくお願いします！」

ラジオCMに切り替わる。

西沢「よし、よし、よーし」

と、小躍りしている。

西沢「やったー！」

と、足の指を机にぶつける。
うずくまる西沢。

西沢「やったー・・・」

西沢、曲がり角で隠れている。

○屋内ライブ会場

恵がステージの上で歌っている。
小林含む親衛隊は最前列で激しく踊っている。

西沢が、その後ろで恵をみている。
手にはプレゼントを持っている。

小林、西沢に気づく。

恵、歌い終わる。

恵「みんなありがとう！ 今回のライブも最高だったよー！」

小林、西沢に近づく。

小林「それ、渡したいんだろ？」

西沢「え？」

小林「来いよ」

と、西沢を連れて行く。

恵「これが最後の曲になります！ プレゼントフォーユー！」

会場が盛り上がる。

○控え室

西沢と小林、恵の控え室の前にたつ。

小林「本来はみんなのメグミンに抜け駆けしてプレゼントを渡すなど許されないが、内気な同志のためにここに案内したんだ。ありがとうがたく思えよ」

西沢「あ、ありがとう」

小林「じゃ、最後のダンスがあるから！」

と、会場へ戻る。

西沢、深呼吸を何度もする。

落ち着かずうろろする。

渡し方の練習をしている。

× × ×

恵が歩いてくる。

恵「また、言いそびれちゃった……」

と、ため息をつく。

恵「あれ？」

控え室の前にプレゼントが置いてある。
恵、辺りを見回す。

○西沢の部屋（夜）

ベッドで横になっている西沢。
ため息をつく。

また、ラジオが流れている。

M C「そうか、じゃあ今回もいいライブになったんだね」

恵「はい、とつても」

M C「そういえば、この前言った西沢さんからは、またプレゼントあったのかい」

恵「はい、今回は事務所じゃなくて、ライブ会場に直接置いてありました」

M C「本人には会えたの？」

恵「いいえ、もう少し早く来てたら会えたかもしれないです」

M C「そうか、西沢さん、謎の人だねえ」

西沢「俺だって、会いたかったよ」

と、枕に顔をうずめる。

M C「それじゃあ、恵ちゃんまた来週もよろしく！ ん、なんだい、恵ちゃん？」

恵「あ、あの、やっぱり、今この場で発表しちゃいます！」

M C「え？」

恵「私、安藤恵は……結婚することになりました」

M C「ええー!？」

西沢、ベッドから飛び起きる。

恵「私は、俳優の神原仁志さんと結婚することとなりました。と、突然の発表になってしまつてごめんなさい。でも、ファンのみんなに隠しているのが耐えられなくて」

西沢「冗談でしょ」

恵「正式にはあさつてに結婚記者会見を開きたいと思っています。ファンの皆さん、本当にごめんなさい。でも」

西沢、ラジオを消す。

西沢「嘘でしょ」

○ファミレス（夜）

ボックス席に座る小林と西沢。

西沢、うつむいている。

小林「まあ、結構前からうわさにはなつてたけどな。まさか、こんなに早く結婚するとは」

小林、自分の鞆をあさる。

小林「でもまあ、こんなこともあるのかと、もう次の子を見つけといたんだよ！」

西沢「え？」

小林、鞆からグラビア雑誌を取り出す。

小林「相田ひとみちゃん！ この子かなりいいよ。最近CDも出したし」

西沢「どういうこと？」

小林「アイドルはいっぱいいるよ。これをいいチャンスだと思って、他の子に乗り換えてみたら？」

西沢、立ち上がる。

西沢「そうか。やっぱり君は違ったんだね」

小林「なんだよそれ、おい！」

西沢、ファミレスを出る。

小林「・・・変人が」

○西沢の家（夜）

西沢が、『安○惠激似女優！』と書かれたパッケージのAVを持っていく。

ビデオをデッキに入れる。

テレビ画面の中でAV女優が手を振っている。

AV女優「みんなー、メグミンだよ」

西沢「くそ、くそ・・・」

と、ベルトを外し、ズボンを下げる。

AV女優が男に胸をもまれる。

AV女優「あん、やだ、あん・・・」

西沢、パンツを下げようとした手が止まる。

西沢「くそ！」

と、ビデオのケースをテレビに投げつける。

西沢、泣き崩れる。

○ホテル・全景

数十階建ての高級なホテル。

○ホテル・エントランス

入口には何十台もの中継車が止まっている。

タクシーが入口に止まる。

○タクシーの中

西沢がスーツ姿で乗っている。

ぬい物をしている。

タクシー運転手、ミラーで西沢を見る。

タクシー運転手「お客さん、着きましたよ」

西沢「うん、ありがとう」

と、ぬい物をやめる。

西沢「よし、出来た」

タクシー運転手「器用ですね。誰かへのプレゼントですか？」

西沢、お金をタクシー運転手に渡す。

西沢「分からない。まだ、迷っているとかなんだ。何がしくて、ここに来たのか」

と、タクシーから降りる。

○ホテル・結婚記者会見会場

前に恵と神原仁志（25）が座っている。

多くの記者が会見に参加している。

後ろの扉から西沢が入ってくる。

西沢、恵のもとへとゆっくりと歩いていく。

記者1「お二人が出会ったのはいつごろですか？」

恵「一年前ぐらいです」

記者2「きっかけは？」

恵「まだ芸能界に入ったばかりで右も左も分からない私を、助けてくれました」

神原「いっぱいこき使われました」

会場に笑い起きる。

西沢、ポケットからナイフを取り出す。

誰も気づいていない。

記者3 「恵さんはこれからもお仕事は続けて
いかれるんですか？」

恵 「はい、ファンの皆さんが許してくれれば、
まだ続けたいです・・・」

突然、泣き出す恵。

恵 「ごめんなさい。私、私、頑張ります！

みんなのために頑張ります！」

記者全員が写真を撮る。

記者3 「おい、誰だあいつ？」

西沢、前に立っている。

頬に涙が伝っている。

恵の前に来る。

西沢 「結婚、おめでとう」

と、プレゼントを渡す。

記者2 「ナイフ持ってるぞ！ 抑えろ！」

大勢の人に抑えられる西沢。

会場から連れ出される。

見詰め合う恵と西沢。

恵、プレゼントを開ける。

中にはウエディングドレスを着た人形
が入っている。

完